

令和 7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	4	学校名	沼津聴覚特別支援学校	校長名	高橋 潤子
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安全・安心で 信頼され選ば れる学校	教職員や子供が、互いにつながりを感じながら、心身共に安心した環境の中で過ごすことができる。	100%	A	朝の打ち合わせや学習会を通じて情報の共有を図ることができた。また、防災訓練では、実態に応じて計画的に行うことができた。
		教職員が、子供に対し命や身体の大切さを意識できるような指導を行うことができる。	100%	A	ヒヤリハット事案もなく、安全に活動を行うことができた。また、食育計画を基に計画手kに実施することができた。
		教職員が自分の仕事にやりがいを感じ、積極的に取り組むことができる。	98%	B	職員全員体制で、同じ方向性で指導にあたったことで、子供の成長をともに感じることができた。お互いに感謝の気持ちを伝え合える環境づくりを行っていく。
		教職員が働きやすい職場環境と感じ、気持ちよく仕事を行うことができる。	88%	B	データ環境が進んだことで、効率よく仕事を行うことができた。業務量の偏りの見直しや相談しやすい環境づくりを心掛けていく。
		学校のアピールや外部との連携が進んでいると事得る。	98%	B	ホームページの更新や地域へのお便りの発信、新聞への投稿など積極的に行うことができた。
		児童生徒が、自身の将来に向けて考えることができる。	98%	B	進路に関するお便りの発行や、先輩と語る会の実施など、将来を考える機会を多く設けた。学部の実態に合わせた進路指導を行うことができた。
イ	聴覚障害教育のセンター的役割を積極的に発揮する	ニーズや相談への対応を行うことができる	100%	B	教育相談や病院との連携を通じ、ニーズに合った対応を心掛けた。多職種との連携を強化し対応を進めていきたい。
		学校が各機関との連携を図ることで通級生が安心して学ぶことができる。	98%	B	中学生向けの集いを実施し、生徒同士のつながりを図ることができた。次年度も計画を立て、安心して学べる環境づくりを行っていく。
		教職員が、学習会や研修を十 s 手専門性の向上を図ることができる。	98%	A	一人一聴覚授業や学部研修の充実により、学ぶ機会の充実が図られた。研修の持ち方を工夫し、専門性の向上につなげていく。

様式第3号

		教職員が、子供に対し言語の拡充を意識した指導ができる。	100%	A	子供の実態に応じ、日々言葉を意識した指導に取り組むことができた。今後も丁寧な指導を行っていく。
	聴覚障害児の特性に配慮した「わかる授業」による楽しむ学び	教職員が子供にわかる授業に向け、工夫したり改善したりすることができる	98%	B	一人一台端末や電子黒板の活用を積極的に進めることができた。ICT 機器を使う目的ではなく「わかる」ためのツールとしての意識を持ち、活用を進めていく。
ウ	地域資源を活用した地域ぐるみの教育の充実	居住地校交流や学校間交流、地域施設の活用を行い、子供の学びの気化器を設けることができる。	98%	A	学部や学年の活動とのバランスや交流の持ち方を検討し、学びにつながる交流を進めていく。